

**専攻医
の主張**

耳鼻科医になったきっかけを振り返って

マツダ病院 耳鼻咽喉科 清原敬一郎

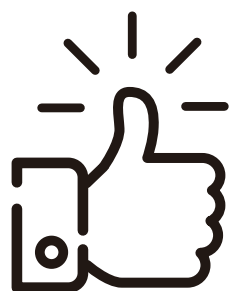
新型コロナウイルス感染症が2類から5類に引き下がり、勉強会や学会等も現地開催されるようになり、社会が目まぐるしく変化している中、耳鼻咽喉科・頭頸部外科に入局してから3年半がたちました。現在はマツダ病院で勤務しており、日々研鑽にいそしんでおります。マツダ病院は、研修医として2年間勤務した病院で、広島市内の他の研修病院と比較すると同期の人数は少なかったですが、その分各科の先生に手厚い指導をしていただき、非常にお世話になりました。感謝しております。

昨年のワールドカップや今年のWBCなど国際的大会でスポーツが盛り上がっていますが、自分も小学生の頃からサッカーをしていたため、スポーツにかかわる仕事がしたいと思い、学生の頃は整形外科を志望していました。研修医になると各科に魅力があり、将来何科を選択するか非常に悩みました。入局した耳鼻科について知ったきっかけは、学生時代に研究室配属実習があり、その際に耳鼻咽喉科・頭頸部外科学で実習させていただいたことでした。その際は、そこまで耳鼻科に入りたいとは思っていませんでした。ただ、その際指導していただいた方に非常によくしていただいたこともあり、耳鼻科を研修医の際にもまわらせていただきました。まわってみると耳鼻科は、いわゆるマイナー科であり、医療番組で主役になることはありません

が、耳・鼻・頭頸部・めまいと分野が幅広く、聴覚・嗅覚・味覚・嚥下・平衡覚などQOLに関わる感覚器を多く扱っており、この科にしかできないことがたくさんある専門性が高い診療科と感じました。また、分野が幅広いため、手術手技も幅広く、癌に対する外科治療だけでなく、機能温存する手術もあり魅力を感じ選択しました。

現在耳鼻科医として働いているのは、研究室実習で耳鼻科をまわったことがきっかけで、耳鼻科に魅力があったことももちろんですが、その後多くの先生方によくしていただいたことが決め手になったかと思います。改めて振り返ると自分はいいい出会いに恵まれたなと感じました。研究室配属で耳鼻科を選んだのは、部活の先輩に勧められたからであり、サッカー部に所属していなければ今の自分はなかったかなと思います。将来どうなるかはわかりませんが、今後も一つ一つの縁を大事にしていきたいと思った今日この頃でした。

最後にこちらの紙面をお借りして、日々ご指導していただいているマツダ病院や耳鼻科の先生方に感謝を伝えさせていただきます。ありがとうございます。今までお世話になった先生方に少しでも恩返しができるよう耳鼻科医として一步一步研鑽していく所存ですので、今後もしも指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



Facebook更新中!

もみじ医が広島県医師会のイベント情報をお知らせしています。
フォローして最新情報をチェックしましょう。

